

「長岡市中心市街地活性化協議会・NPO 法人まちなか考房の取り組み」について ～官民協働のまちづくりを目指して～

特定非営利活動法人まちなか考房 事務局長 坂田 晃秀

1 はじめに

長岡市では、平成15年にいち早く「中心市街地活性化は、商店街の活性化のみではない。」という概念のもと、少子高齢化・長寿化社会を迎えた地方都市において、中心市街地が持つ特性を活かしたまちづくりをめざし「中心市街地構造改革会議」（会長：長岡商工会議所会頭、事務局：長岡市都市整備部まちなか活性課）が設置され、郊外へ分散立地した様々な公共サービスのまちなか回帰と新たなまちなか型公共サービスの展開を目指し動き始めました。

その直後、平成16年10月23日午後5時56分に突然見舞われた中越地震は、まちづくりに大きな課題を与えたとともに、復旧から復興という新たなパワーも同時に与えてくれました。

中心市街地の再生は、復興の象徴であり、長岡のまちづくりの基軸となるものと考えながら、平成19年11月に長岡市中心市街地活性化協議会を設立し、20年11月11日に「長岡市中心市街地活性化基本計画」が認定されました。

中心市街地再生に向けたまちづくり組織であり、長岡市中心市街地整備推進機構の認定を受けているNPO法人まちなか考房の活動を通じて、中心市街地再生・活性化に向けたソフト事業の取り組みを紹介します。



(JR長岡駅・大手通り)

2 中心市街地活性化基本計画の概要

長岡広域市民の「ハレ」の場となる新しい長岡の「顔」づくりを目指し、①市役所機能のまちなか回帰が先導する「まちなか型公共サービス」の展開 ②まちなかを舞台とした「市民協働」の積極的な推進～行政の率先垂範により様々な市民活動の拠点を生み出し、市民との協働によるまちづくりを推進～することを基本方針とした計画作りを行っており、「来街者の多様なニーズを満たすまち」「快適で便利なまちなか居住も促進」「魅力あるまちなか就業の場」「まちなかで花開く「市民力」」をまちの目標に掲げています。

市民協働の拠点づくりとしては、市民協働型シティホールの整備（シティホールプラザ「アオーレ長岡」：公会堂（アリーナ）、屋根付き広場、市役所本庁舎の3施設が融合した施設）が来年4月にオープン予定であり、市役所機能の一部は、すでに完成した駅前再開発ビルにこの夏に移転が完了し、市内3大学1高専による「まちなかキャンパス」も同じ再開発ビルにオープンをしています。



(シティホールプラザ「アオーレ長岡」の建設現場風景)

交通結節点の機能強化として、JR長岡駅の利便増進策として駅東西自由通路、ペDESTリアンデッキ、地下自転車駐車を一体的に整備し、シティホールプラザ「ア

オーレ長岡」の完成とあわせた整備を行っているところです。



(駅前広場整備・ペDESTリアンデッキ建設風景)

まちなか居住の促進として、都市型住宅の整備を大手通中央東地区、西地区の二つの再開発事業により良質な共同住宅を整備し、また西地区には子育て支援施設である「まちなか保育園・ちびっ子広場」が入居しています。

こうしたハード事業は、着実に完成に向け進み、これから新たに生まれ変わる器をいかに有効に活用し、市民の活力、まちの活性化につなげるかが私たち中心市街地活性化協議会の役目だと考え、行政との協働によるまちづくりの実現に取り組んでいます。



(まちなかキャンパス館内)



(大手町中央東市街地再開発事業／フェニックス大手)

3 中心市街地活性化協議会の活動 ～NPO 法人まちなか考房の事業展開～

長岡市中心市街地活性化協議会は長岡商工会議所とNPO 法人まちなか考房が事務局として設立し、その実戦部隊である「タウンマネジメント部会」をNPO まちなか考房が運営しています。

中心市街地での活性化イベントは、これまで、長岡市商店街連合会等が主催する「大手通歩行者天国」を中心に、大規模な集客イベントが主体であり、歩行者天国という空間により多くの集客を！という展開でしたが、こうした展開に加え、「まちなか」の魅力の発信、情報発信を主体に日常的な「まちなか」の楽しみ、良さを再発見し、また、この「まちなか」で暮らし、働き、商売する人たちの活力を生み出す仕掛けを目指しています。

① まちなかビアガーデン「七夕の集い」(継続事業)

かつてデパートの屋上にあったビアガーデンを復活！屋上はなくなってしまいましたが、長岡商工会議所所有の屋外駐車場を一日限りのビアガーデンに！仕事帰りの一杯、暑気払いに！と「まちなか」の良さを再発見のイベントです。



② 28万人の灯り「駅前大ケヤキイルミネーション事業」(継続事業)

中越地震からの復興を祈願し始まった事業で、冬の風物詩として賑わいを創出しています。その後、商店街も加わり、まちなかイルミネーションとして継続しています。

③ 中越地震復興祈念イベント「復興の集い」(継続事業)

平成16年10月23日午後5時56分に突然襲われた中越地震からの復旧・復興を祈念し、復興のシンボルとして「まちなか」でのイベントを継続実施しています。今年も、東日本大震災復興祈念の願いも含め、多くの市民とともに集い、祈りを灯りに込め実施します。



④ まちなか散策「探見ぶらさんぼツアー」

ボランティアガイド等との連携を含め、城下町長岡の史跡探索に加え、まちなかの老舗や面白い店舗をめぐるツアーを実施。毎年2月～3月に開催される「越後長岡ひなものがたり」(実行委員会主催)との連携による雛めぐりツアー等企画ツアーから日常的なお店発見ツアーを随時実施しています。

⑤ まちなか探検録企画

店のオーナーを講師としたお店探検企画。若者が出店したダーツバーなど、入ったことは無いけど興味があるのではと思えるお店を紹介しながら、オーナーとのふれあいを企画し、まちの魅力を紹介しています。

⑥ 各種情報マップの作成

長岡バーマップ(社団法人日本バーテンダー協会中越支部との協働)、駐車場マップをはじめ、各種まちの情報マップを作成するとともに、「ぶらさんぼマップ」としてまちなかのお店をイラスト形式でのマップを作成。ぶらさんぼマップでは、このマップを手にしたツアーも企画しています。

⑦ その他

中心市街地活性化シンポジウムを毎年開催するなど、市民、関係者への意識啓発や街角コンサートなど多くの市民が「まちなか」に興味と愛着や誇りを感じてもらえる事業をさまざま実施しています。

4 各種団体との連携、まちなかを取り巻く状況

中心市街地活性化に向けては、商店街主体の各種イベントに加え、各種団体、NPO法人等が「まちなか」を舞台とした事業展開を実施しています。

※「ながおか食の陣」「五十六祭り」「ナイトバザール」「くおれ・ながおか」「まちなかビジョン」・・・等
来春にオープンが予定されるシティホールプラザ「アオーレ長岡」での事業展開を意識しつつ、「まちなか」での試行的な取り組みや、再整備が完成した後の器の活用方策を模索しつつ、また、各種団体の連携による中心市街地活性化を協議会としても模索しているところです。

5 終わりに

中心市街地の構造改革を目指し、行政主体のハード事業が着実に進むなか、そのハードを活かすための民間活力を醸成し、また様々な団体との連携、市民の意識啓発を図りつつ、中心市街地活性化基本計画の理念や目的を実現し、次の世代に「まちなか」をつなぎ、長岡の活性化を維持、発展させることが願いです。

(NPO法人まちなか考房 <http://www2.nct9.ne.jp/tmc-nagaoka/>)

(さかた あきひで)